

試験結果報告書

殿

工事名：

試験の種類： 碎石 13-05

試験年月日： 令和8年2月25日

北九州市八幡西区大字畑576番地の3

株式会社 西村碎石所 大谷工場



写

この写しは原本と相違ないことを
証明致します

砕石 13-05

年 月 日

北九州市小倉南区大字呼野1035-5

株式会社 西村砕石所



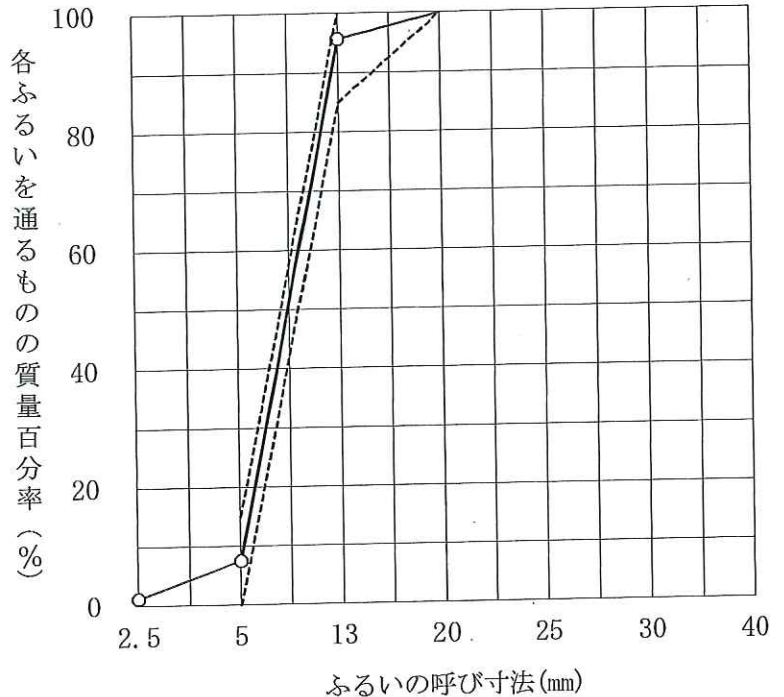
道路用砕石試験成績書

2026年2月25日

種類	単粒度 S-13 (6号)	原石の種類	硬質砂岩
製造会社名	株式会社西村砕石所	採取地の地名・地番	北九州市八幡西区大字畑字丸尾551外25筆
工場名	大谷工場	試験実施日	物理試験 : 2026年2月
試験項目 (物理試験)	規格値	試験値	備考
絶乾密度 (JIS A 1110)	2.45g/cm ³ 以上	2.71	表乾密度 (2.72)
吸水率 (JIS A 1110)	3.0%以下	0.51	
すりへり減量 (JIS A 1121)	35%以下	15.7	
安定性 (JIS A 1122)	12%以下	0.8	
軟石量 (JIS A 1126)	5.0%以下	0.0	
単位容積質量 (JIS A 1104)	—	1.53kg/ℓ	
粘土塊量 (JIS A 1137)	0.25%以下	0.0	
細長い、あるいは扁平な石片 (舗装・調査試験法便覧)	10.0%以下	1.7	

ふるい分け試験 (JIS A 1102)

	ふるいの呼び寸法	各ふるいを通るものの質量百分率 (%)
ふるい分け試験結果	30	—
	25	—
	20	100
	13	96
	5	7
	2.5	1



作成者	担当部署 : 品質管理課
	担当者名 : 安藤 俊作

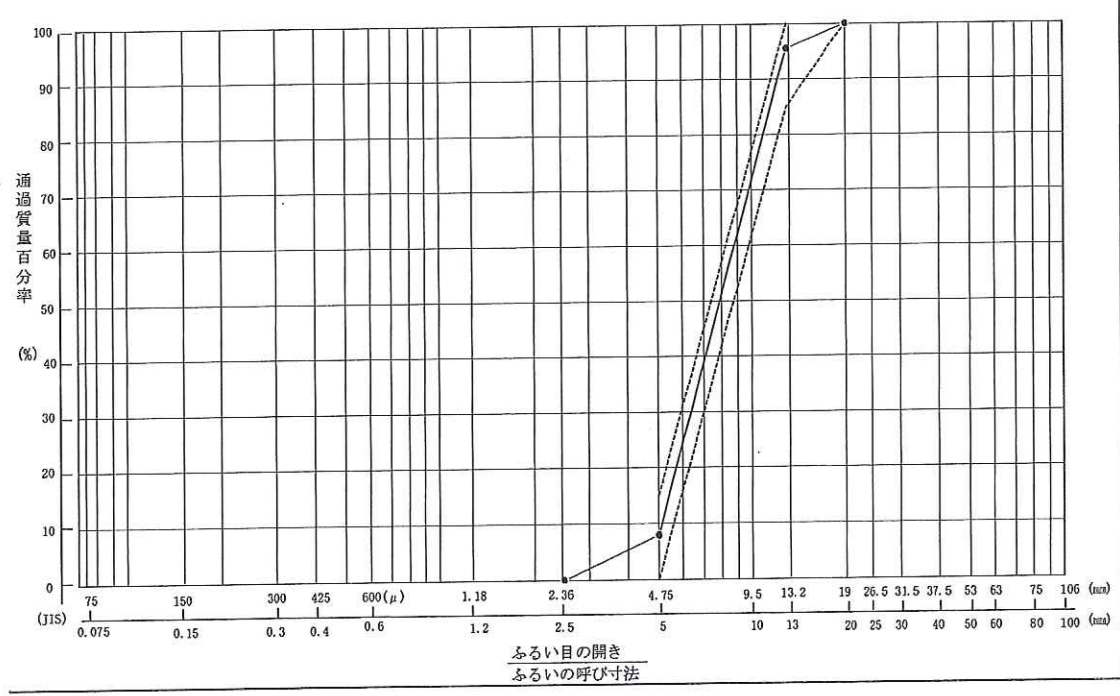
製造会社名	株式会社西村砕石所
工場名	大谷工場

JIS A 1102 骨材のふるい分け試験

試料番号 _____ 試験年月日 2026年2月3日
 調査名・目的 単粒度 S-13 (6号) 使用場所 _____
 試料採取場所 製品ヤード 試験者 安藤 俊作

試験前の試料の質量 3,510 g
 試験後の試料の質量 3,508 g
 試験前後の質量の差 0.1 % (1%未満)

ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる量		各ふるいにとどまる量の累計		ふるいを通る量 (%)	粒度範囲 (%)
	(g)	(%)	(g)	(%)		
40						
30						
25						
20	0	0	0	0	100	100
13	155	4	155	4	96	85~100
10	—	—	—	—	—	—
5	3,074	88	3,229	92	8	0~15
2.5	204	6	3,433	98	2	
1.2						
0.6						
0.4						
0.3						
0.15						
0.075						
受皿	75	2	3,508	100	0	
計	3,508	100				



備考

粗骨材の密度及び吸水率試験

試料採取日 2026年2月3日 試験年月日 2026年2月4日

試験で用いた水の温度 20℃ 試験者 安藤 俊作

		試験回数	1	2
m ₁ : 表面乾燥飽水状態	①	ρ_w	0.9982	0.9982
における試料の質量 (g)	②	m ₁	2461.3	2470.5
m ₂ : 試料とかごの水中の	③	m ₁ × ρ_w	2456.9	2466.1
見掛質量 (g)	④	m ₂	1907.6	1914.8
m ₃ : 金網かごの水中の	⑤	m ₃	350.1	350.0
見掛質量 (g)	⑥	② - (④ - ⑤)	903.8	905.7
m ₄ : 絶対乾燥状態の	⑦	D _s = ③ ÷ ⑥	2.72	2.72
質量 (g)	表乾密度の平均値 (g/cm ³)		2.72	
D _s : 表面乾燥飽水状態に	表乾密度の平均値からの差 (g/cm ³)		0.00	0.00
における密度 (g/cm ³)	⑧	m ₄	2,448.7	2,457.9
D _d : 絶対乾燥状態に	⑨	m ₄ × ρ_w	2,444.3	2,453.5
における密度 (g/cm ³)	⑩	D _d = ⑨ ÷ ⑥	2.70	2.71
Q : 吸水率 (質量分率) (%)	絶乾密度の平均値 (g/cm ³)		2.71	
ρ_w : 試験温度における	絶乾密度の平均値からの差 (g/cm ³)		0.00	0.00
水の密度 (g/cm ³)	⑪	$Q = \frac{② - ⑧}{⑧} \times 100$	0.51	0.51
		吸水率の平均値 (%)	0.51	
		吸水率の平均値からの差 (%)	0.00	0.00

※ 水の密度は、試験温度に応じて次の値を用いる。

温度 (°C)	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
密度 (g/cm ³)	0.9991	0.9989	0.9988	0.9986	0.9984	0.9982	0.9980	0.9978	0.9975	0.9973	0.9970

※ 試験値は、平均値からの差が、密度の場合は0.01 g/cm³以下、吸水率の場合は0.03%以下でなければならない。

※ 試料は、JIS A 5001による。

ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験報告書

試験年月日

2026年2月7日

試験者 安藤 俊作

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2026年2月3日	試料の試験前における粒度	13~10 10~5
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)	粒度区分	C
試料番号	—	玉の個数及び全質量	鋼球8個 3329g
試料質量	40kg	円筒の回転数	500回

摘 要	測 定 値	
① 試験前の試料の質量 (g)	13~10	2,500
	10~5	2,500
	合 計	5,000
② 試験後の1.7mmふるいにとどまった試料の質量 (g)	4,215	
③ すりへり損失質量①-② (g)	785	
④ すりへり減量 (%)	15.7	

$$\text{すりへり減量 (\%)} = \frac{\text{すりへり損失質量}}{\text{試験前の試料の質量}} \times 100$$

※ 粒度区分は、JIS A 5001による。

骨材の安定性試験報告書

2026年2月25日

試験年月日

2026年2月7日

試験者 安藤 俊作

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2026年2月3日	試験溶液の種類	硫酸ナトリウム
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)		
試料番号		備考	5サイクル
試料質量	40kg		

通るふるい	とどまるふるい	①各群の質量分率	②試験前の各群の質量	③試験後の各群の質量	④各群の損失質量分率 1-③/②×100	⑤骨材の損失分率 ①×④/100
(mm)	(mm)	(%)	(g)	(g)	(%)	(%)
40	25	—	—	—	—	—
25	20	—	—	—	—	—
20	15	3	—	—	0.4	0.0
20	15	57	500	497	0.6	0.4
10	5	40	300	298	0.8	0.3
合計		100	—	—	—	0.7

備考

$$\text{各群の損失質量分率(\%)} = \left(1 - \frac{\text{試験前の試料の質量(g)}}{\text{試験後の試料の質量(g)}} \right) \times 100$$

$$\text{骨材の損失質量分率(\%)} = \frac{\text{各群の質量分率(\%)} \times \text{各群の損失質量分率(\%)}}{100}$$

ひっかき硬さによる軟石量試験報告書

2026年2月25日

試験年月日

2026年2月9日

試験者

安藤 俊作

試料採取箇所	製品ヤード	試料質量	40kg
試料採取日	2026年2月3日	試料採取方法	4分法
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)		
試料番号		備考	

とどまる ふるい (mm)	通る ふるい (mm)	①各群の 質量分率 (%)	②試験前の 各群の		③各群の軟石		④各群の軟 石質量分率 ③/②×100 (%)	⑤各群の軟 石個数分率 ③/②×100 (%)	⑥骨材の 軟石量分率 ①×④/100 (%)
			質量 (g)	個数 (個)	質量 (g)	個数 (個)			
40	30	—	—	—	—	—	—	—	—
30	25	—	—	—	—	—	—	—	—
25	20	—	—	—	—	—	—	—	—
20	15	4	—	—	—	—	0.0	0.0	0.0
15	10	96	200	69	0	0	0.0	0.0	0.0
合計		100	200	69	0	0	—	—	0.0

骨材の単位容積質量及び実績率試験報告書

2026年2月25日

試験年月日

2026年2月5日

試験者 安藤 俊作

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2026年2月3日	試料の詰め方	棒突き
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)	試料番号	
試料質量	100kg	合否判定	合格

摘 要	第1回測定	第2回測定	平均値
① 容器の容積 (ℓ)	10.0	10.0	—
② 容器中の試料の質量(g)	15,290	15,294	—
③ 単位容積質量 (kg/ℓ)	1.53	1.53	1.53
単位容積質量の平均値からの差 (kg/ℓ)	0.00	0.00	—
④ 絶乾密度 (kg/cm ³)	2.71	2.71	—
⑤ 実績率 (%)	56.7	56.7	56.7

※ 単位容積質量の平均値からの差は、0.01kg/ℓ以下でなければならない。

粘土塊量試験報告書

2026年2月25日

試験年月日

2026年2月6日

試験者 安藤 俊作

試験採取箇所	製品ヤード	試験採取方法	4分法
試験採取日	2026年2月3日		
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)		
試験質量	40kg	備考	

摘要	1回目	2回目	平均値
① 試験前の質量 (g)	2,053.1	2,037.4	—
② 試験後2.5mmふるいとどまったものの質量 (g)	2,053.1	2,037.4	—
③ 粘土塊の質量 (g) ①-②	0.0	0.0	—
④ 粘土塊量 (%) $\frac{\text{③}}{\text{①}} \times 100$	0.0	0.0	0.0
平均値との差 (%)	0.0	0.0	—

※ 粘土塊量の平均値からの差は、0.2%以下でなければならない。

骨材の形状試験報告書

2026年2月25日

試験年月日

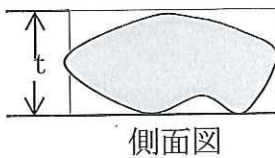
1900年1月0日

試験者 安藤 俊作

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2026年2月3日		
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)		
試料質量	40kg	備考	

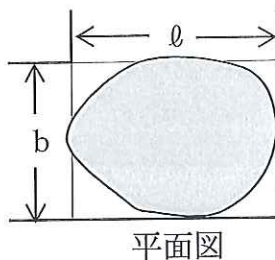
摘 要		
M1 細長いあるいは扁平と判定された骨材の質量	(g)	23.7
M2 細長いあるいは扁平と判定されなかった骨材の質量	(g)	1,361.5
細長いあるいは扁平な骨材の含有量	(%)	1.7
$\frac{M1}{M1 + M2} \times 100$		

※ $\ell / t \geq 5$ にあてはまる骨材を細長いあるいは扁平な骨材とする。



水平面

b : 短径 粒子の平面図において、輪郭に接する2つの平行線間の最小距離



ℓ : 長径 上記の平行線間で、短径に対して直角方向の最大距離

t : 厚さ 水平面に平行で粒子表面に接する平行面間の最大距離

骨材を水平な面の上に置いたとき、最も安定した状態を上から見た図を平面図とする。